


# 新しい三河安城駅～通過駅から下車駅へ～

対象地区は、JR三河安城駅と東海道新幹線三河安城駅に挟まれた地区である。今回のプランを提案するにあたり、東海道新幹線三河安城駅以南の土地とのつながりをつくる。

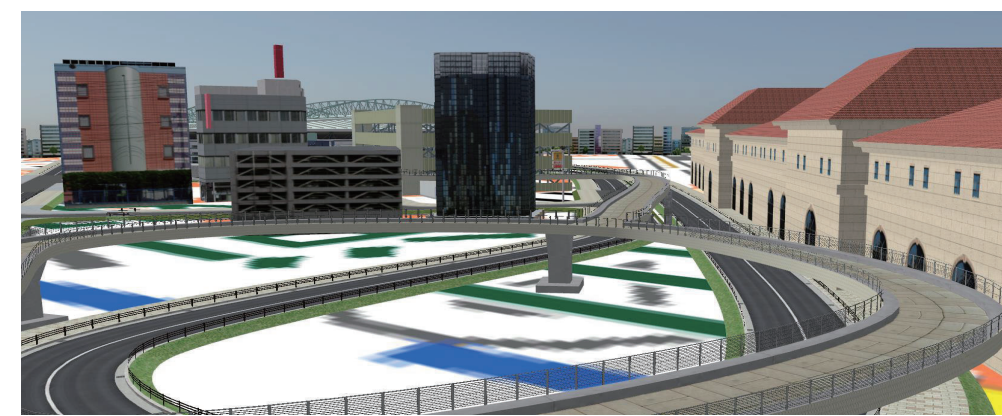
### コンセプト

- アリーナを中心とする、繋がりのあるまち
- 訪れた人をワクワクさせるまち
- 歩いていて楽しくなるまち



## メインアリーナまでの導線 - ペDESTリアンデッキ -

メインアリーナまでの導線には、ペDESTリアンデッキを採用する。川西能勢口駅北口（兵庫県）や新横浜駅北口（神奈川県）の既存のものを参考に設置する。アリーナの開業に伴い、公共交通を利用して訪れる人の増加が見込まれる。歩行者や自転車の安全を確保するため、ペDESTリアンデッキで歩車を分離する。



①新幹線方面からみた、アリーナまでの導線イメージ

## 駅前広場

歩くため、憩いのための空間だけでなく、ペDESTリアンデッキからの景色としても楽しめる空間をつくる。アリーナ使用時には、人があふれ、活気にあふれる駅前広場になるよう、路面のデザインも工夫する。観戦に訪れた人に、ワクワク感をもたらし、非日常感を演出するため、ペDESTリアンデッキから駅前広場に向かってプロジェクターを設置し、イベント内容が映し出されるようにする。



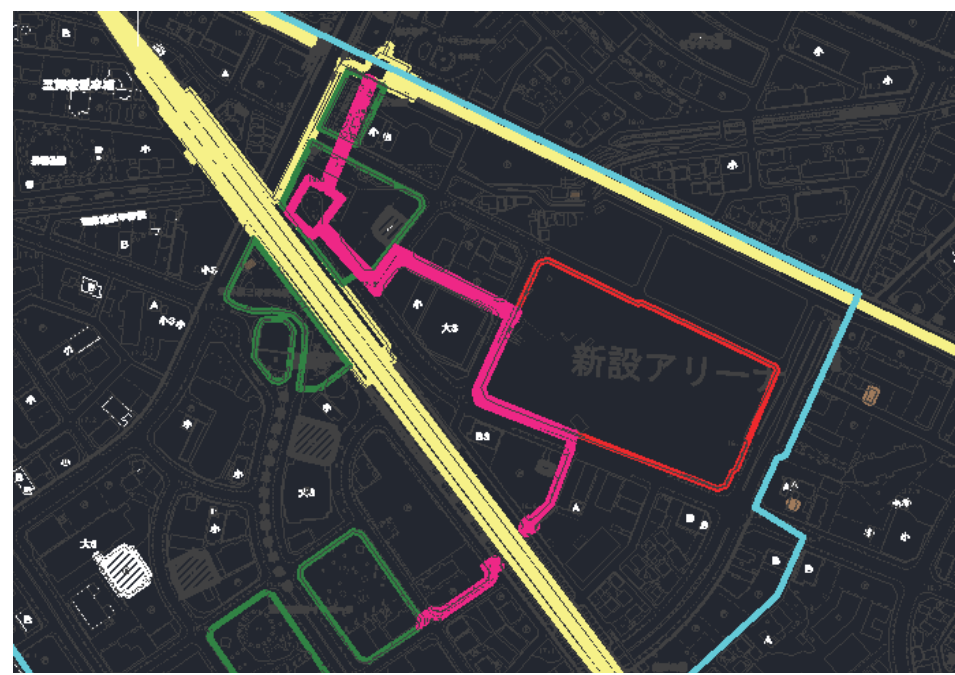
## 周辺の交通環境について

アリーナの開業に伴い、周辺道路の交通量の増加も見込まれる。周辺の道路環境を整備し、公共交通の乗り入れ増加にも繋げていく。狭い道路の拡幅や通行規制をつけるなど、歩行者の安全を確保できる道路を目指す。

交通量の増加によって、交通事故や交通渋滞の発生も予測される。積極的な歩車分離とそれぞれの専用空間の設置することで安全を確保する。アリーナ使用時には、アクセスを妨げない範囲での通行規制を一時的に設けることも検討する。



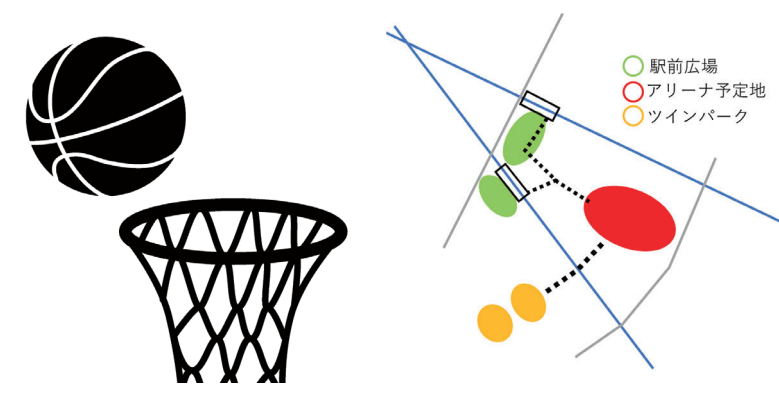
参照：Googlemap



ピンク線：今回構想した歩行者の同線  
赤線：新設予定のアリーナ

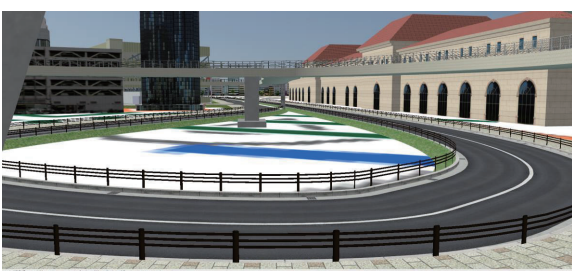
## ツインパークとアリーナ

東海道新幹線以南にある、三河安城ツインパークの活性化として、ストリートバスケットを提案する。シーホース三河の新たなホームアリーナとしての活用が見込まれており、誰もが気軽に楽しめるストリートコートは、周辺施設の活性化に繋げていく。バスケットコートのデザインにも、シーホース三河のチームカラーを取り入れたり、地図上で見てもぱっと明るく、目立つようなカラーを取り入れる。JRと新幹線、アリーナ、ツインパークをひとつの導線で繋ぎ、双方への移動としてはペDESTリアンデッキを採用するなど、新たなまちとしての魅力にする。



## 駅前ロータリー

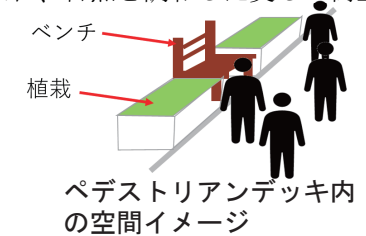
駅前には現在もロータリー 関わらず導線を確保できるが設置されているが、ア ように考える。大型のバスアリーナの開業により、交通 の到着も考えられるので、量の増加も見込まれるため、待機場所と走行車線をしっ公共交通と自家用車のロー かりと区別することで安全タリーを分け、混雑具合に な走行空間を確保する。



## ストリートファニチャー

アリーナまでの導線の中で、来た人をワクワクさせるようなストリートファニチャーの設置を考える。ペDESTリアンデッキは、距離が長いため、歩くだけの空間にするのではなく、動く歩道の設置や、両側にベンチを設ける。アリーナまでの導線は、愛知県名古屋市のバンテリンドーム名古屋付近をイメージする。雨の日も快適に移動でき、人々が周りの景色を楽しみながらアリーナまで移動できる施設は、訪問客にとって魅力的である。また、愛知県内では見かけることの少ない、動く歩道を取り入れることで、少し違った雰囲気

を楽しむことができるだろう。周辺には、多くの緑も取り入れ、自然と調和した美しい街並みをイメージする。



ペDESTリアンデッキ内の空間イメージ